

TERA Story

この Story ページ制作にあたり、TERA の会社としての歴史、またご先祖の歩みを遡る機会となりました。

そして改めて、今のこの TERA があることは、単に今をつくっている人だけでなく、その歩みがあってこそこの“今”ということを改めて認識いたしております。

今までも、これからも、そのタイミングで起こる出来事や出逢いに感謝し、学び続けながら自然に変化をとげてゆければ、と思っています。

私（現代表：寺岡真貴子）の生まれる未だ昔、先代（母方：寺岡家）は“寺岡食品”を営んでいたそうです。

そして、父方は婚礼家具店。時代の流れと共に引き出物として生活雑貨が求められる傾向になり、母（元代表：寺岡可江）が家具店の傍で雑貨店を営み始めるのが TERA の前身となります。

（1979～1988 年）

その後、引き出物としての雑貨に留まらず、ファンシー小物なども扱う小売店を多店舗展開してゆきます。経営の勉強として、コンサルタント会社、船井総合研究所にお世話になり、代表の船井幸雄先生が当時主宰していた“直観力研究会”にも参加するなかで、船井先生にもかわいがっていただいていたいました。

（1991 年）

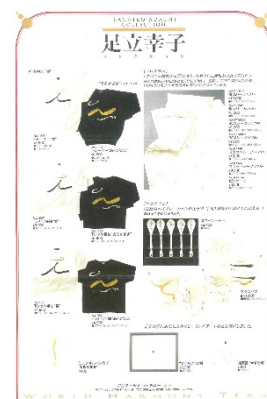


そんな中、船井先生から「あなたと気が合いそうな人が居る」と声をかけていただき、出会ったのが足立幸子さん。当時、大きな交通事故を経験され、これからは“アーティストとして生きる”と決められ、生活品に自分のアートを乗せた製品を生み出した

したい、との思いのあった幸子さんと意気投合し、製品開発をスタートします。

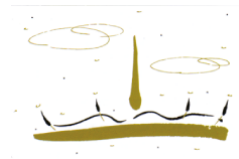
（1992 年）

マグカップ、T シャツ、タオル、ハンカチ、シーツなど、順次、製品を共に手掛けながら、個展も開催。



このような流れの中、社名も幸子さんの命名により、「ワールドハーモニー・テラ」に変更。

“生活に必要な製品を通じ、人々の意識を高め、宇宙と調和のとれた繁栄に貢献する”とのコンセプトを掲げ、コーポレートマークも描いていただきました。



（1993 年）

当時、様々な方をお招きし、両親が主催していた「心と身体の美と健康セミナー・第 4 回」にゲストとして足立幸子さんをお招き。岡山にて講演会を開催していただいたこともありました。個展の開催や、製品づくりの打ち合わせなど、岡山に滞在されることも多かった幸子さん。



滞在中は 2 世帯で暮らしていた寺岡家の自宅にお泊りいただき、寺岡の祖母とも親しく交流をさせていただいていました。そして、この土地を第 2 の故郷としても、とても気に入っていただいていたようです。

精力的に、東京でのギャラリー開設や、アート作品作り、講演活動などに動かれていた幸子さんでしたが、1993 年 6 月 20 日、くも膜下出血により 47 歳という若さで逝去されます。製品づくりとしては、はじめてお兄様の足立育朗氏の描かれた形態とコラボしたアートをプリントしたシーツづくりの最終段階というところでした。

関係者には、あまりにも突然の出来事でしたが、棺の中に完成したシーツを入れての旅立ちとなったようでした。

その後、講演会録から、「あるがままに生きる」書籍が生まれ、全国の書店で反響がありながら、幸子さんのアート製品を求められる方に、製品を届けさせていただくという流れが生まれます。



（1998 年）

実際に来岡し、製品が見たい、と言われる方も訪れていただく中で、生前に祖父が来客用に使用していた応接間を整理させていただき、ショールームとして開放。

手に取ってみたい、と言われる方をお通しし、寺岡家の誰かが対応をしていました。



当時、自分の身体を整えるための勉強のひとつとして、玄米を中心に副菜をとりいれた食事や東洋医学療術を学んでいた母は、「あるがままに生きる」を読んで来ていただいた方に、自分のこころの状態、身体の状態を整えるために、整体をしてさしあげたり、食のお話をさ

せていただくことも増えてきていました。

そんな中、病を患っていた祖母が入院。意識が朦朧とする中で、元気になったらもう少し田舎に越して、小さな菜園をしながら、そこでできたものを調理していただく生活がしたい、との思いで、知り合いの伝手で土地を探し、借金をし、購入をします。その後、程なくして、幸子さんの命日と同じ6月20日に永眠。

両親は、祖母の思いが詰まったその土地に自宅を建てることを決意します。

これまで暮らしていた2世帯住宅。応接をショールームとして開放しているスペースをどうするか、それは、自然な成り行きの中で、形がみえてきました。

1Fはショールーム、お座敷はギャラリースペース、私たちが提案しているような食が召し上がっていただけるレストラン、おもて面は、自然食品、生活雑貨の購入できるショップ。



2Fは整体、図書スペース。

これまで経営をしてきた母からすれば、この計画は採算を度外視した無謀な業態、という判断だったといいますが、当時、無気力だった私の思いを尊重し、全面的にサポートしてくれた事業のはじまりとなりました。

案の定、当時は未だオーガニックや自然食といった認識も低く、利益を生み出すところまでは到底難しく、これまでの資産を投じて身を削りながら何とか維持してゆくことになります。



経営困難な状況も続く中でしたが、2年ほど運営したレストランも過労で閉鎖することとなります。

程なくして、タイ国で農園を経営するHamony life社、大賀社長との出逢いにより、タイに行くことを決めます。当時、オーガニック栽培を試行錯誤していた農園でようやく作物が実りはじめたところで、どうしても市場に出すことが難しい規格外の作物を使って加工品が作れないか、という試みでした。漬物など地元マーケットでの販売を試みたりしました。



その後、タイの作物、文化に触れる中で、食にも身体にもハーブを有用に使うこと、そのハーブの効用を自ら体験し、魅力を感じました。

お寺にはハーブ小屋のようなものがあり、生ハーブを煮炊きした蒸気が充満している中に

地域住民が入って蒸気浴ができるスペースがあったり、ホームセンターでは気軽に蒸気浴ができるキットが売られ、スーパー野菜売り場で販売されているハーブを使って、スープなどの調理に使うのと同時に、蒸気浴にも使う。マッサージ店では、タイマッサージの手技が終わった後に、ハーブのたっぷり入ったハーブボールを素肌に転がし、ハーブの薬効を肌からとり入れるセラピーがあったり、それが、非常に身体の芯まで届くものでした。

その蒸気浴は通常、座浴ですが、それを横になった状態で体験できないか、それを探し、行きつき、運用させていただいているのが、タイハーブ蒸し岩温浴 Raula になります。

2007 年に TERA 店舗で運営をはじめました。現在では、オーガニックファームで栽培された 6 種類のハーブをオリジナルブレンドしたハーブパックを使用しています。



(2012～2013 年)

当時、月極駐車場として運営していた店舗隣の敷地を将来的にどうするか、相続問題も加味し、考えた際に、自宅を改装し店舗としていた敷地も含めて更地にし、賃借物件を建てる、という計画があがります。



樹生建築研究所、足立育朗氏監修のもと、地元の設計士の方、工務店さんと協力し、建設に着手します。



ちょうどこの時期、父ががんのため入院するのですが、マンション建設に伴う銀行との交渉時には奇跡的に体調を復活させ、退院。退院の翌日に、何事もなかったように銀行さんとの書面のやり取り、手続きを終えることができました。

その後、再度入院、手術をしますが、マンションの完成間近だった 6 月 21 日に他界。

8 月に竣工したマンションの名前、Sin Keruuxu TERA (シンケルーフテラ) には父由来の名前も刻まれています。

その 1F に店舗として、ワールドハーモニー・テラがリニューアルオープンします。

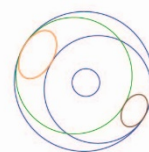
食品店、ギャラリーと自家製天然酵母ベーカリーを併設しての新たな幕開けとなりました。

(2013 年)

社名を株式会社ワールドハーモニー・テラに変更。

ロゴマークも新しく生まれ変わります。

World Harmony TERA



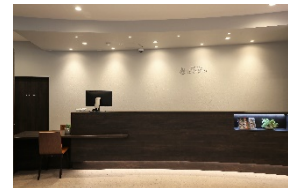
(2019 年)

自家製天然酵母ベーカリー部門を閉業。

(2021～2022 年)

父・辰久が 1989 年に開業した当時、地元では初であったスーパー銭湯「ぽかぽか温泉」をコロナ渦をきっかけに大規模リニューアルする計画が持ち上がります。

複合健康サポート施設とコンセプトを掲げ、温浴施設に、機能改善トレーニングジム、ナチュラル志向の軽食スペース、循環型洗剤をとり入れたランドリー、物販エリアを設け、3 か月間の工事期間を経て、「SPA&Wellness ぽかぽか」として、2022 年 2 月 24 日にリニューアルオープン。



TERA と“食”などの提供も連動しながら、協力した形での運営がはじまります。

(2023 年)

急速冷凍機の導入により、スープ、カレー、加工野菜など、オリジナル冷凍食品の企画開発、製造販売を始めます。

近隣の農家さんにも協力をしていただきながら、新たな「食」の分野をはじめることになります。

万能オイルの製造、販売にも着手し、本来の“食”、“食づくり”について追及をしてゆく歩みをはじめています。

TERA の歩みは、自分自身の歩みでもあり、そのタイミングタイミングで関わっていただける方とのコラボレーションによって、生み出せるものは多彩なグラデーションが広がるものとなりました。

その根底には、すべてのものと共存し、本来の交流をはかりながら、無理なく、自然に、力むことなく、常識にとらわれずにうみだしてゆくこと。

そういった、自然な枠にとらわれない意識で生み出されたものを「食」に留まらず、生活にとりいれることで、より自然な生き方、無理のない平穏な心の状態を維持できることに繋がるのでは、と信じています。

それにはまず、自分自身に真摯に向き合うことが大切。

TERA を構成するそれぞれが己に真摯に向き合い、介在するすべての存在、サポートして

くれる人たちのありがたい出会いの中で、真摯に向き合い、本来の輪、信頼を拡げてゆくしかないとかんじています。

その中から自然にはぐくまれ、生まれてくるもの、形。

自分たちそれぞれの学びと並行しながら、都度、未熟ながらも TERA としてできる最善のものを生み出し、TERA、ぽかぽかを通して、関わっていただける方に提供してゆくことのできる形を都度都度大切ににあたため、発信をしてゆければ、と存じます。

寺岡真貴子